

ユネスコ・スクールの実現と成功に向けて  
- ESD(持続教育)の質的向上を目指そう -

開倫ユネスコ協会  
会長 林 明夫

1. はじめに

(1)2009 年度関東ブロックユネスコ活動研究会に御参加の皆様、ようこそ日本最古の学校足利学校のある街、足利市においで下さいました。心より歓迎申し上げます。

足利学校は足利時代(室町時代)には、全国各地から 3000 名もの学僧が集い、当時最先端の儒学や易学などを学び、各地に帰った学僧の中には近所の人々を集めてお寺で文字の読み書きを教えた寺子屋教育発祥の原点の一つであると伝えられております。

(2)このような足利学校のある街足利市で、世界寺子屋運動や持続可能な社会の形成を目指す持続教育(ESD)を推進する日本ユネスコ協会連盟の 2009 年度関東ブロックユネスコ活動研究会が開催されることは、極めて意義深いことであると考えます。

(3)そこで、ESD(持続教育)を教育内容とするユネスコ・スクールの実現と成功を目指して取り組むべきキー・ポイントとは何かを、皆様とともに考えてみたいと思います。

2. ESD(持続教育)の質的向上を目指して

(1)ESD(持続教育)の質とは一体何でしょうか。私は、次の 3 つであると考えます。

カリキュラムの質

先生の質

マネジメントの質

これからユネスコ・スクールを通じて ESD(持続教育)を推進していくに際しては、常に「カリキュラムの質」、「先生の質」、「マネジメントの質」とは何かを、頭のシツが痛くなるくらい徹底的に考え抜いた上で十分議論し、できるところから勇気をもって始め、振り返り(リフレクション)を積み重ねながらよい方向に向かって突き進むことが求められるのではないかと考えます。

(2)次に、ESD(持続教育)の教育成果を決定する要因とは何でしょうか。私は、次の 2 つであると考えます。

本人の自覚

先生の力量

ESD(持続教育)であっても、その教育成果を決定する最も大きな要因は「本人の自覚」であります。学習者自身が自分自身をよく知り、何のために ESD(持続教育)に取り組むのか、ESD(持続教育)と取り組んで何をどうしたいのかを自分自身の力で自覚しながら学ぶことが、教育成果を生むものと考えます。

「本人の自覚を促すこと」も、「先生の力量」に含まれます。本人の自覚を促すことのできる「先生の力量」も、ESD(持続教育)の担当者として欠くことができません。「先生の力量形成のためのしくみづくり」も大切であります。

3. おわりに - 励まし合う仲間づくりを -

(1)ユネスコ・スクールの実現を通しての ESD(持続教育)の推進には、乗り越えなければならない困難なことも多いとは存じますが、この研究会を通して「励まし合う仲間」を一人でも多くお作り頂き、明日からの活動にターボ・エンジンをお付け頂きたく存じます。

(2)最後に、私の大好きな言葉を御紹介させていただきます。

「一生勉強、一生青春」

足利市に生まれ育ち生活された、書家相田みつを先生の言葉です。

(3)皆様、ようこそ足利市においで下さいました。

心より感謝申し上げます。